

第41回 中小企業景況調査 (平成 26 年 4 月 - 6 月)

《調査結果の要約》

建設業以外は消費税の駆け込み需要の反動は軽微

- ・ 全業種の業況判断 DI はプラス幅が拡大しています。
- ・ 業種別 にみると、以下のとおりです。

3 ヶ月前から好転 ↑ : 小売業 (買回品)、飲食業、サービス業

3 ヶ月前から横ばい → : 製造業

3 ヶ月前から悪化 ↓ : 建設業、小売業 (最寄品)

1. 全業種の業況判断 DI は +12.0 (3 ヶ月前と比べ +6.0 ポイント) と業況はプラス幅が拡大しています。
2. 設備投資件数は 37 件 (3 ヶ月前に比べ +4 件) となりました。内訳の上位は、OA 機器 15 件、機械設備 8 件、車両運搬具 6 件、建物 5 件です。
3. 経営上の問題点 (回答社数に対する比率) は、①需要の停滞 : 44% (52 社) が最も多く、②人件費以外の経費の増加 : 28% (33 社)、③単価の低下・上昇難 : 21% (24 社)、④利用者ニーズの変化 : 20% (23 社) が続いています。

〈国内および神奈川県の中小企業の景況トピックス〉

- ・ 国内全産業の業況判断 DI は 3 期ぶりにマイナス幅が拡大した。産業別で製造業は 6 期ぶりに、非製造業も 3 期ぶりにマイナス幅が拡大した。全産業の業況判断 DI は、前期▲11.1 から▲23.2 (▲12.1 ポイント減) でマイナス幅が拡大した。製造業の業況判断 DI は、前期▲2.6 から▲18.3 (▲15.7 ポイント減) とマイナス幅が拡大した。業種別に見ると、木材・木製品、鉄鋼・非鉄金属、化学、家具・装備品などでプラスからマイナスに転じ、その他の製造業、印刷、電気・情報通信機械器具・電子部品、パルプ・紙・加工品などでマイナス幅が拡大した。非製造業の業況判断 DI は、前期▲14.0 から▲24.7 (前期差▲10.7 ポイント減) でマイナス幅が拡大した。産業別では建設業がプラスからマイナスに転じ、卸売業、小売業、サービス業でマイナス幅が拡大した。

- ・ 神奈川県の中小企業景況は、業況 DI では前期比 1.7 ポイント低下の▲27.7 となり、消費税改定前の駆け込み需要の反動から、昨年度の上昇傾向から一転して、5 期ぶりの低下となった。経営状況では、売上 DI は同 3.1 ポイント低下の▲23.9 となった。また、採算 DI は同 2.5 ポイント低下の▲32.5 となり、7 期ぶりの低下となった。今後の業況 DI を見ると、3 ヶ月後は現在比 5.0 ポイント低下の▲32.7 と、一旦下がると見込んでいるが、半年後は同 0.1 ポイント低下の▲27.8 で、4-6 月期と同程度まで回復すると見込んでいる。業況 DI は 5 期ぶりに低下だがわずかであり、消費税 8% の影響は軽微であったと推察される。

* 国内は、独立行政法人 中小企業基盤整備機構、神奈川県は財団法人 神奈川産業振興センターの調査報告書から抜粋

《調査要領》

1. 調査時点：平成26年7月現在
2. 調査対象：鎌倉市内の中小企業、特に小規模企業（製造業・建設業・小売業（最寄品）・小売業（買回品）・飲食業・サービス業）の中から150企業を抽出しました。

	製造業	建設業	小売業		飲食業	サービス業	合計
			最寄品	買回品			
調査件数	15	15	23	30	37	30	150
回答数	12	14	18	21	26	26	117
回答率	80.0%	93.3%	78.3%	70.0%	70.3%	86.7%	78.0%

3. 調査方法：郵送によるアンケート方式(一部経営指導員による聞き取り)
4. 調査項目
 - (1). DIの状況について
 - ① 自社の業況 ② 売上額 ③ 資金繰り ④ 採算 ⑤ 従業員数
 - (2). 設備投資について
 - (3). 経営上の問題点について
5. 調査データについて
 - (1). DI：Diffusion Index(デフュージョンインデックス・景気動向指数)の略。
各調査項目について、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差引いた数値で、企業の景況感の判断に使用する指数。
 - (2). データは当該期間（四半期ごと）と、その前年同期および向こう3ヵ月の見通しを対比したものです。
 - ・ 四半期； 1年の4分の1、すなわち「3ヵ月間」
 - ・ 前期比； 3ヵ月前との比較
 - ・ 前年同期比； 1年前との比較

<DI計算例>

「やや増加」・「やや好転」50% 「変わらず」20% 「やや悪化」・「やや減少」30%
の場合、次のような計算になります。

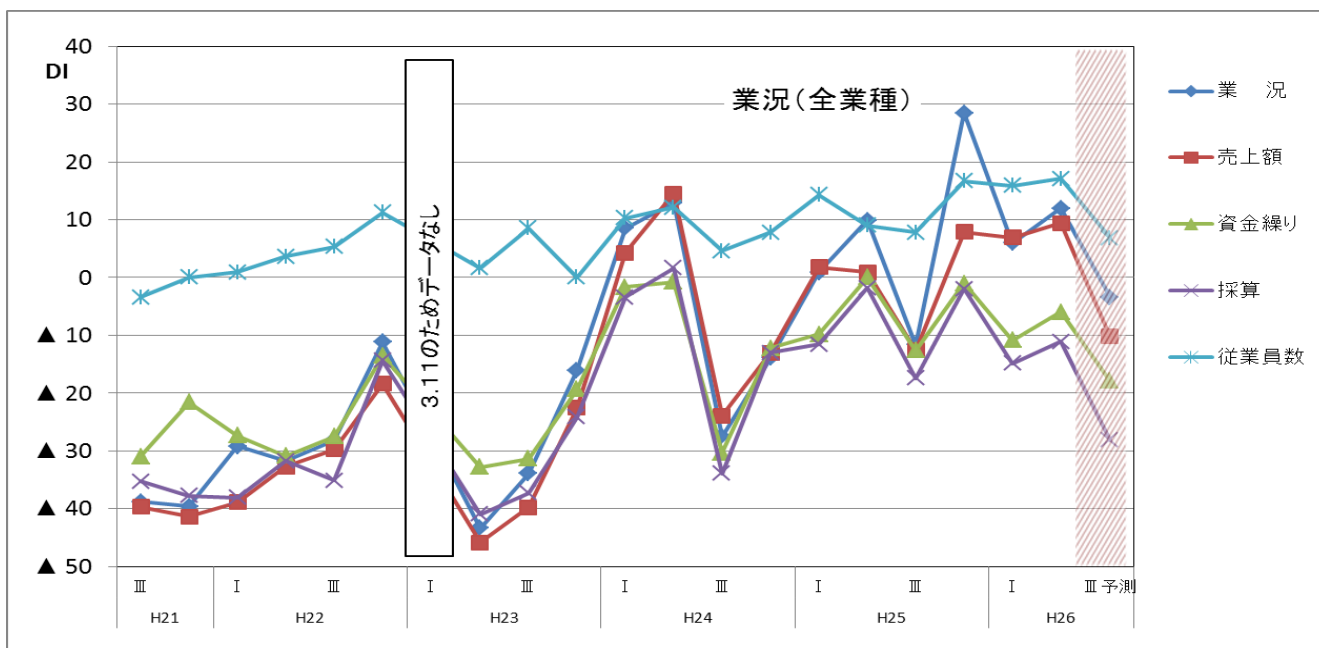
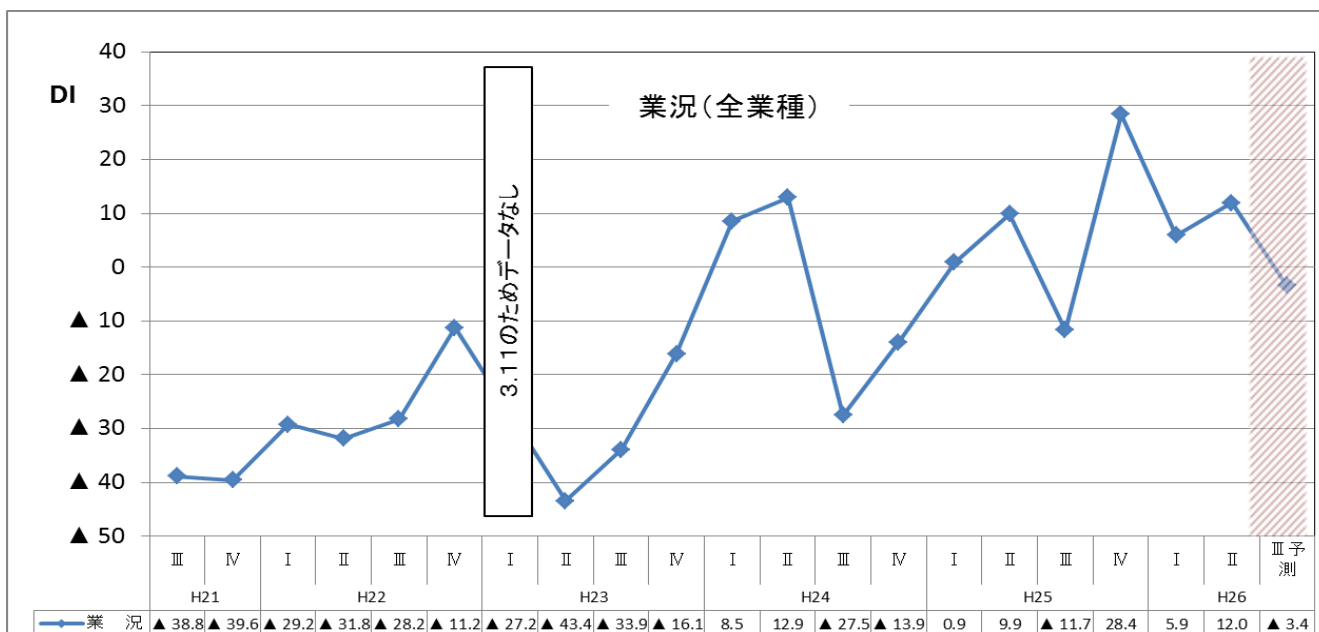
$$\begin{aligned} \text{DI} &= +50 - 30 \\ &= +20 \end{aligned}$$

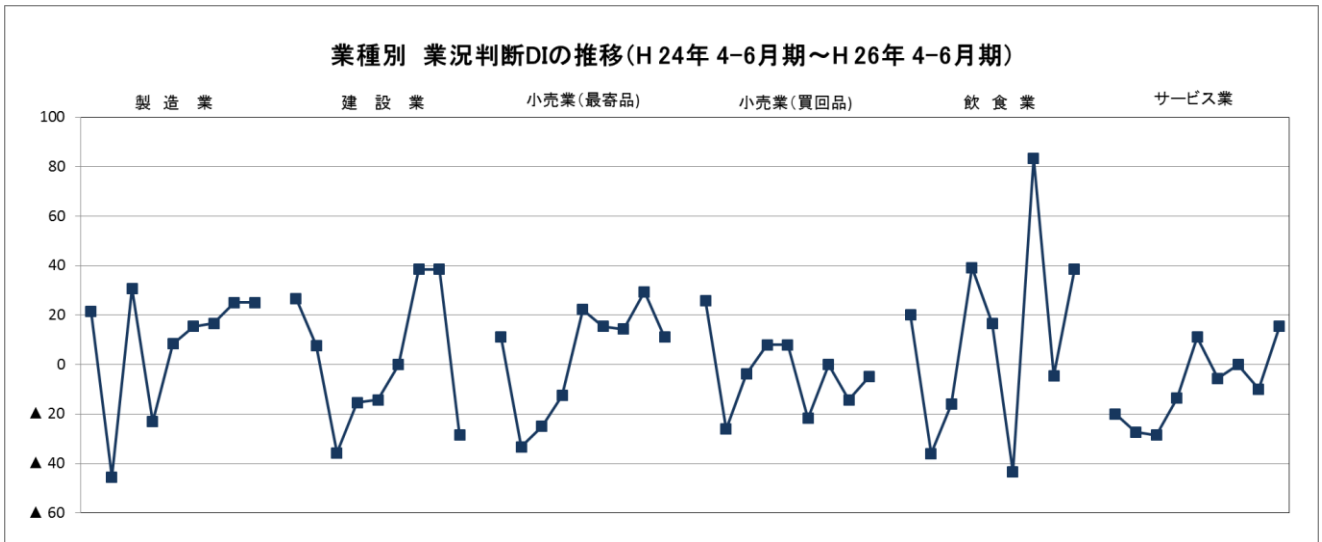
《調査結果》

I. 全業種

□ 業況 DI

- ・ 全業種の業況判断 DI は+12.0（前期比+6.0 ポイント）とプラス幅が拡大し、3 ヶ月先は▲3.4 と悪化の見通しです。
 - ・ 売上 DI は+9.4（前期比+2.5 ポイント）とプラス幅がわずかに拡大し、3 ヶ月先は▲10.3 と悪化の見通しです。
 - ・ 資金繰り DI は▲6.0（前期比+4.9 ポイント）とマイナス幅がわずかに縮小し、3 ヶ月先は▲17.9 と悪化の見通しです。
 - ・ 採算 DI は▲11.1（前期比+3.7 ポイント）とマイナス幅がわずかに縮小し、3 ヶ月先は▲28.2 と悪化の見通しです。
 - ・ 従業員数 DI は+17.1（前期比+1.3 ポイント）と人手不足感がわずかに拡大し、3 ヶ月先は+6.8 と人手不足感は縮小する見通しです。
- ・ 業種別の業況判断 DI は、小売業（買回品）、飲食業、サービス業製で改善し、建設業、小売業（最寄品）で悪化し、製造業は横ばいでした。



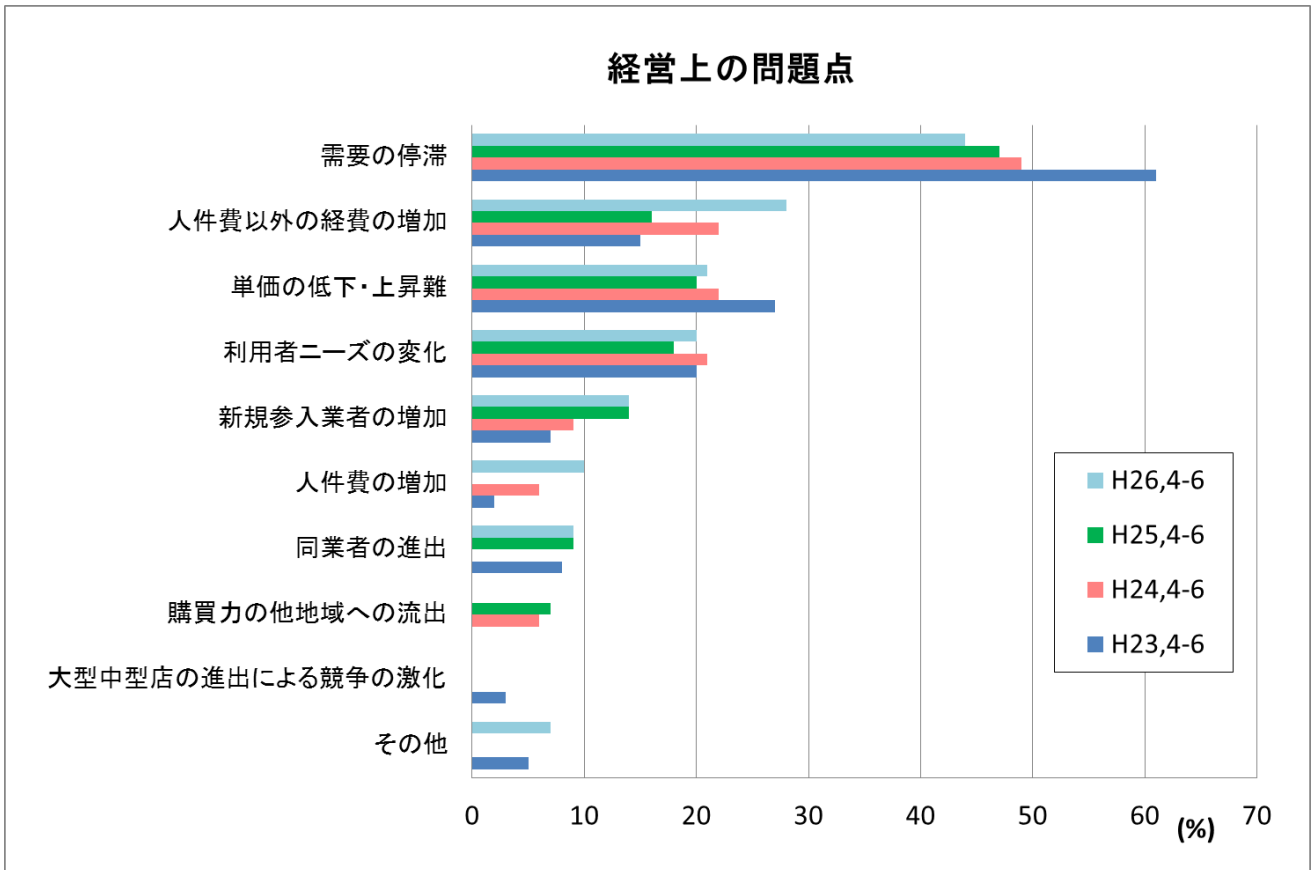


□設備投資の動向

- ・設備投資件数は 37 件（3 ヶ月前に比べ+4 件）となりました。内訳の上位は、OA 機器 15 件、機械設備 8 件、車両運搬具 6 件、建物 5 件です。

□経営上の問題点

- ・経営上の問題点（回答社数に対する比率）は、①需要の停滞：44%（52 社）が最も多く、②人件費以外の経費の増加：28%（33 社）、③単価の低下・上昇難：21%（24 社）、④利用者ニーズの変化：20%（23 社）が続いています。

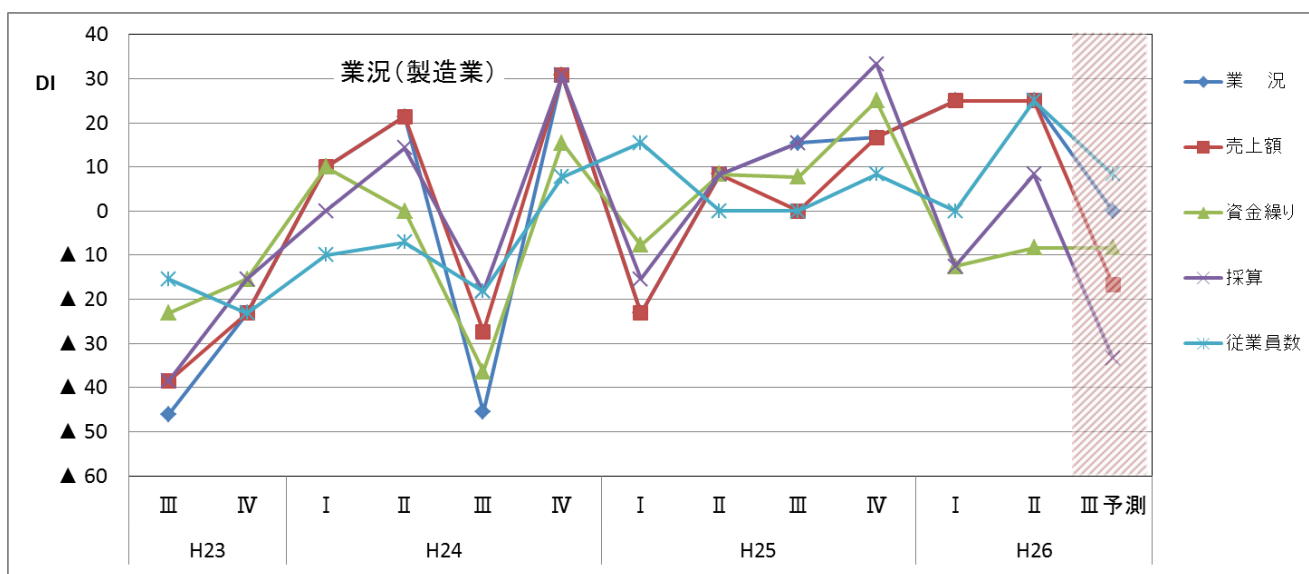


II. 業種別

1. 製造業

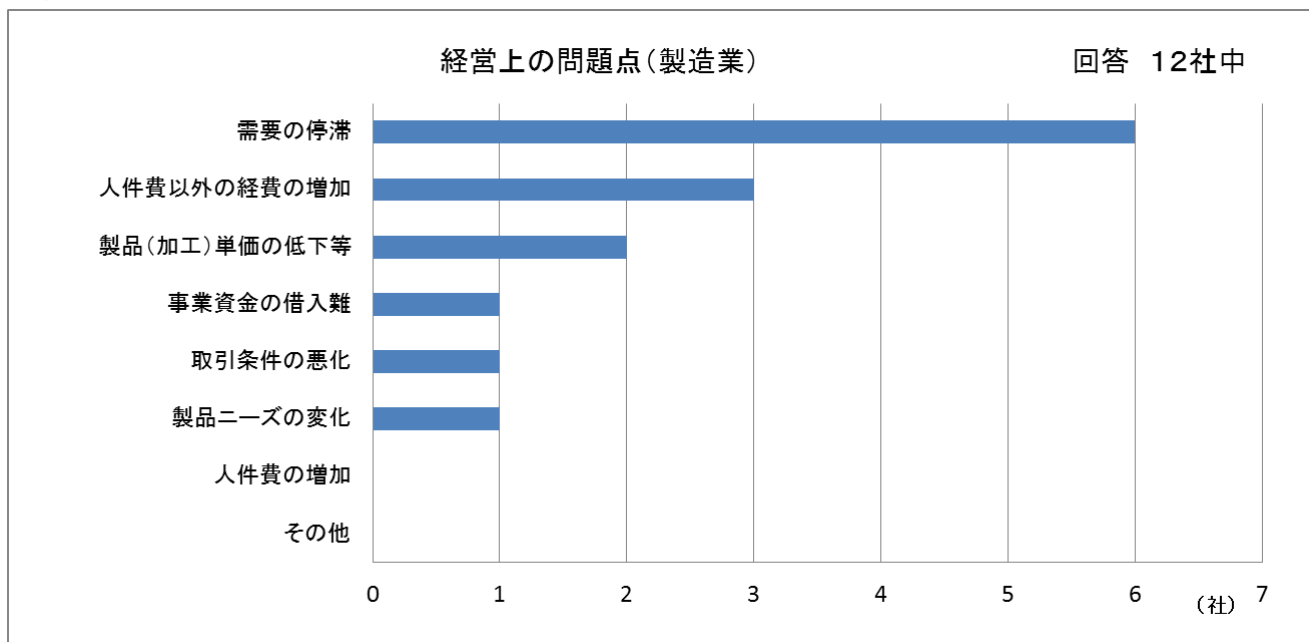
□業況DI

- ・業況判断DIは+25.0（前期比±0ポイント）と横ばいで、3ヵ月先は±0と悪化の見通しです。
- ・売上DIは+25.0（前期比±0ポイント）と横ばいで、3ヵ月先は▲16.7と悪化の見通しです。
- ・資金繰りDIは▲8.3（前期比+4.2ポイント）とマイナス幅がわずかに縮小し、3ヵ月先は▲8.3と横ばいの見通しです。
- ・採算DIは+8.3（前期比+20.8ポイント）とマイナスからプラスへ大きく改善し、3ヵ月先は▲33.3と悪化の見通しです。
- ・従業員数DIは+25.0（前期比+25.0ポイント）と人手不足感が大きく生じ、3ヵ月先は+8.3と人手不足感が縮小する見通しです。



□設備投資の動向 設備投資件数はOA機器4件、機械設備と建物の各1件です。

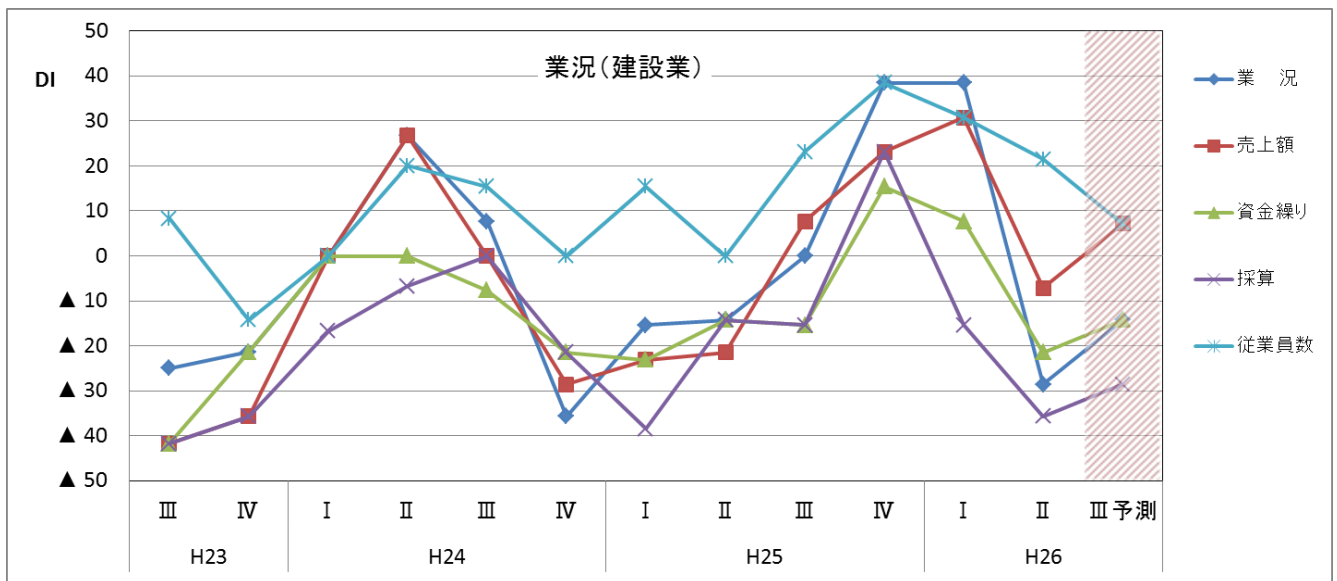
□経営上の問題点



2. 建設業

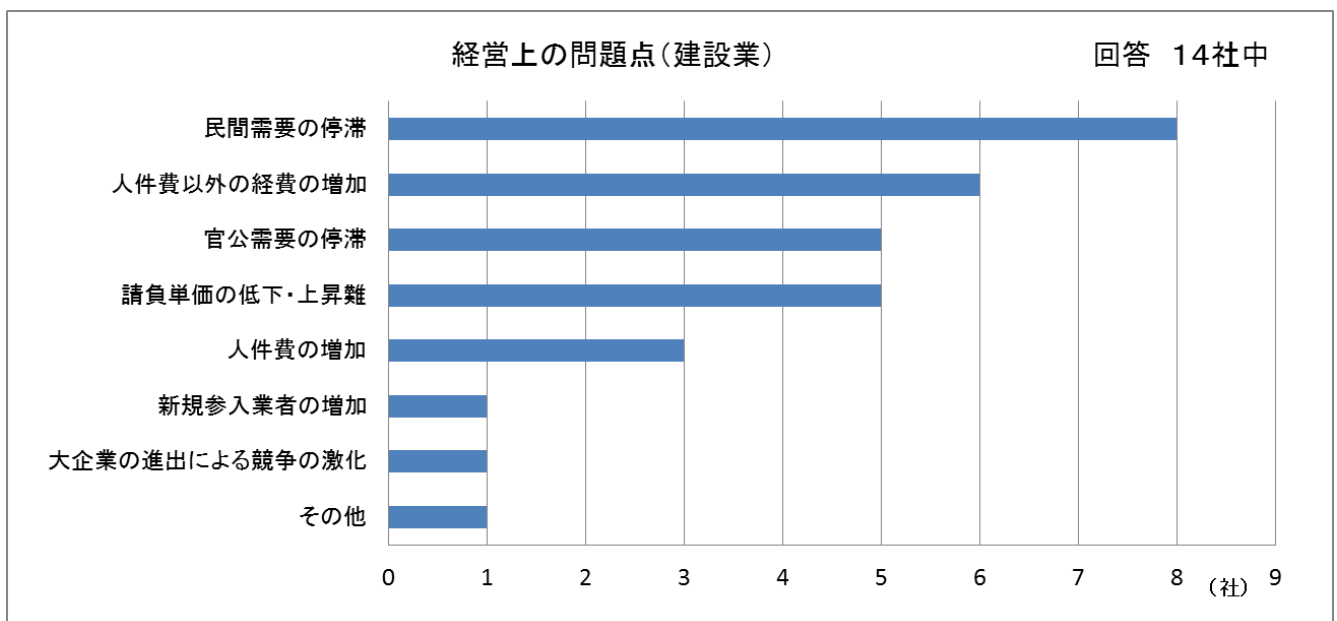
□業況 DI

- ・ 業況判断 DI は▲28.6（前期比▲67.0 ポイント）とプラスからマイナスへ大きく悪化し、3ヵ月先は▲14.3 と改善の見通しです。
- ・ 売上 DI は▲7.1（前期比▲37.9 ポイント）とプラスからマイナスへ大きく悪化し、3ヵ月先は+7.1 と改善の見通しです。
- ・ 資金繰り DI は▲21.4（前期比▲29.1 ポイント）とプラスからマイナスへ大きく悪化し、3ヵ月先は▲14.3 と改善の見通しです。
- ・ 採算 DI は▲35.7（前期比▲20.3 ポイント）とマイナス幅が大きく拡大し、3ヵ月先は▲28.6 と改善の見通しです。
- ・ 従業員数 DI は+21.4（前期比▲9.3 ポイント）と人手不足感が縮小し、3ヵ月先は+7.1 と不足感がさらに縮小する見通しです。



□設備投資の動向 設備投資件数は車両運搬具 3 件、車両運搬具 1 件です。

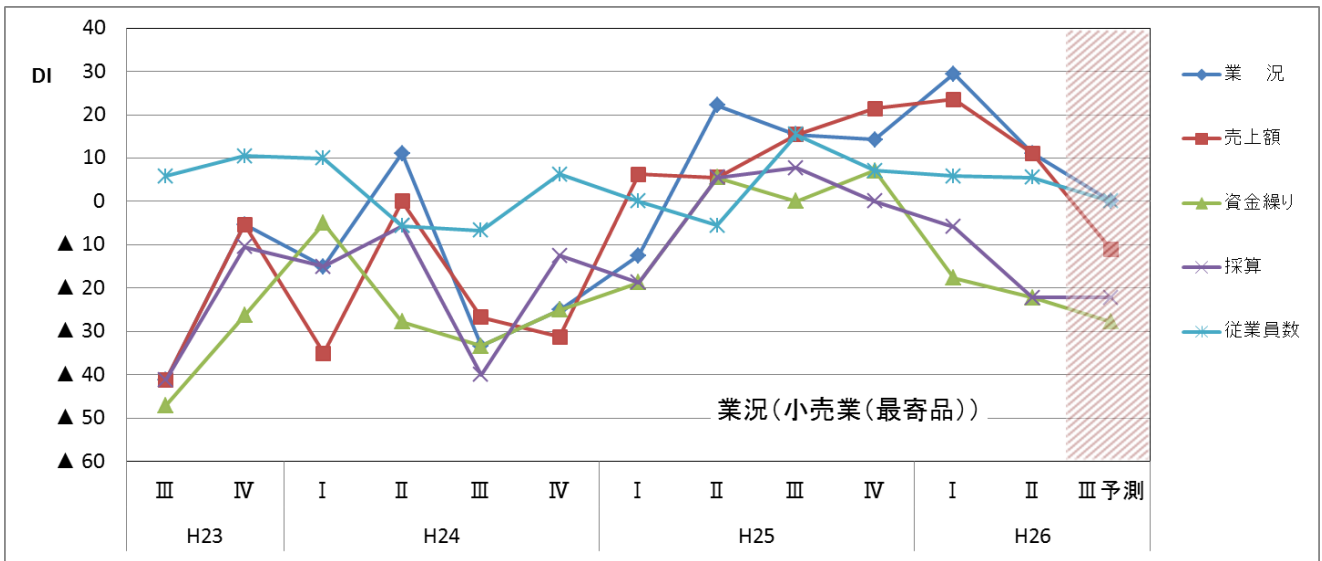
□経営上の問題点



3. 小売業（最寄品）

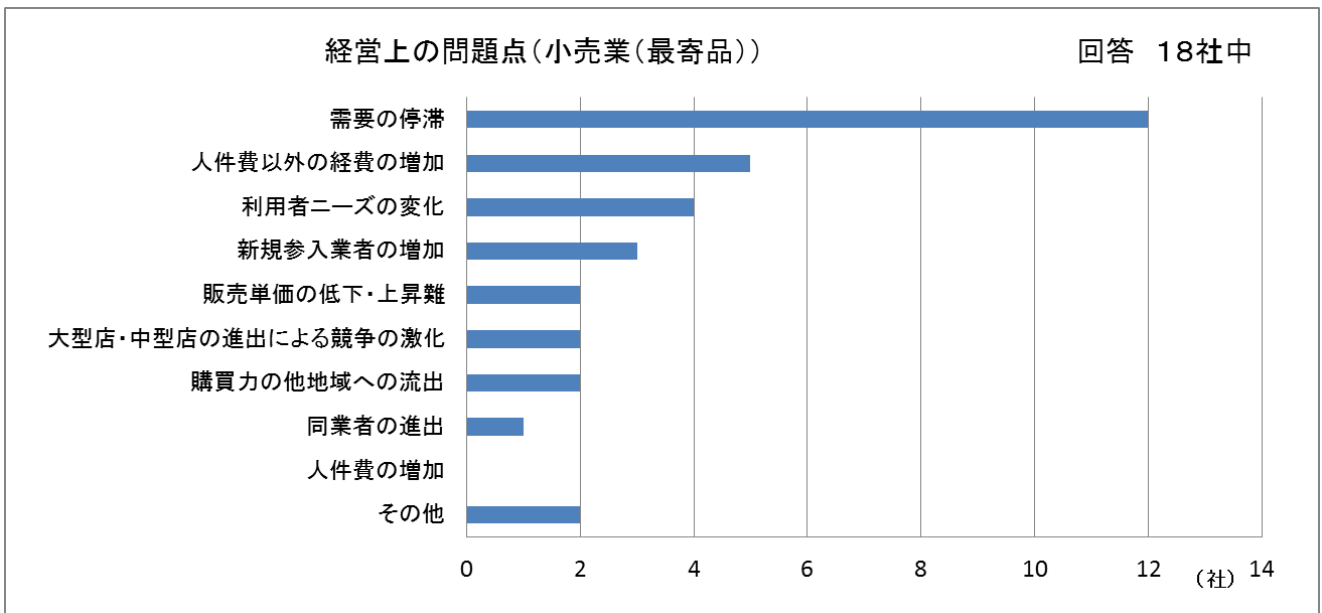
□業況 DI

- ・業況判断 DI は+11.1（前期比▲18.3ポイント）とプラス幅が縮小し、3ヵ月先は±0と悪化の見通しです。
- ・売上 DI は+11.1（前期比▲12.4ポイント）とプラス幅が縮小し、3ヵ月先は▲11.1と悪化の見通しです。
- ・資金繰り DI は▲22.2（前期比▲4.6ポイント）とマイナス幅がわずかに拡大し、3ヵ月先は▲27.8と悪化の見通しです。
- ・採算 DI は▲22.2（前期比▲16.3ポイント）とマイナス幅が拡大し、3ヵ月先は▲22.2と横ばいの見通しです。
- ・従業員 DI は+5.6（前期比▲0.3ポイント）と人手不足感はほぼ横ばいで、3ヵ月先は±0と人手不足感が縮小する見通しです。



□設備投資の動向 設備投資件数は機械設備とOA機器の各2件、車両運搬具と建物の各1件です。

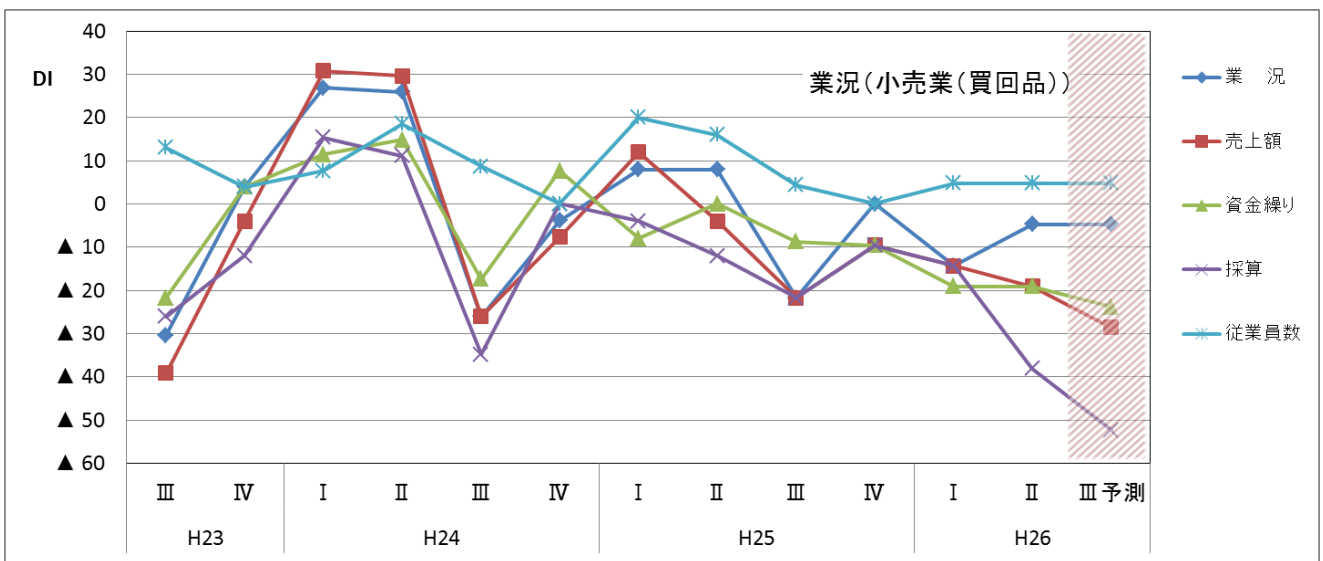
□経営上の問題点



4. 小売業（買回品）

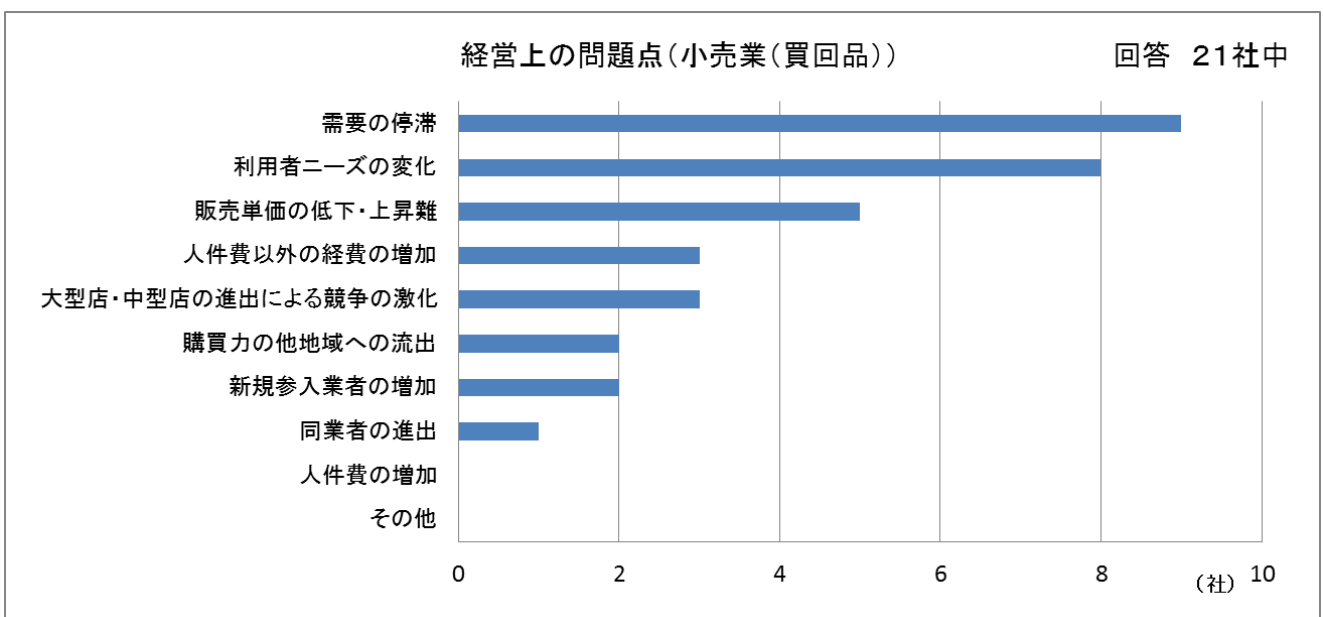
□業況 DI

- ・業況判断 DI は▲4.8（前期比+9.5 ポイント）とマイナス幅が縮小し、3 ヶ月先は▲4.8 と横ばいの見通しです。
- ・売上 DI は▲19.0（前期比▲4.8 ポイント）とマイナス幅がわずかに拡大し、3 ヶ月先は▲28.6 と悪化の見通しです。
- ・資金繰り DI は▲19.0（前期比±0 ポイント）と横ばいで、3 ヶ月先は▲23.8 と悪化の見通しです。
- ・採算 DI は▲38.1（前期比▲23.8 ポイント）とマイナス幅が大きく拡大し、3 ヶ月先は▲52.4 とさらに悪化の見通しです。
- ・従業員数 DI は+4.8（前期比±0 ポイント）と人手不足感が横ばいで、3 ヶ月先は+4.8 と横ばいの見通しです。



□設備投資の動向 設備投資件数は車両運搬具とOA機器各1件です。

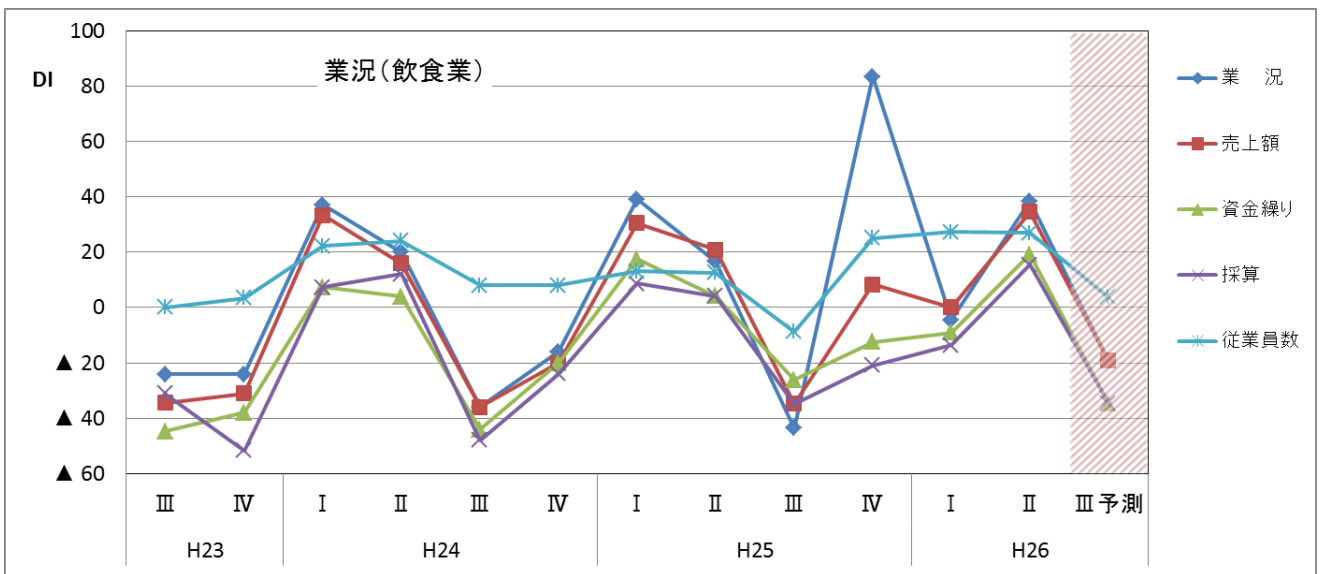
□経営上の問題点



5. 飲食業

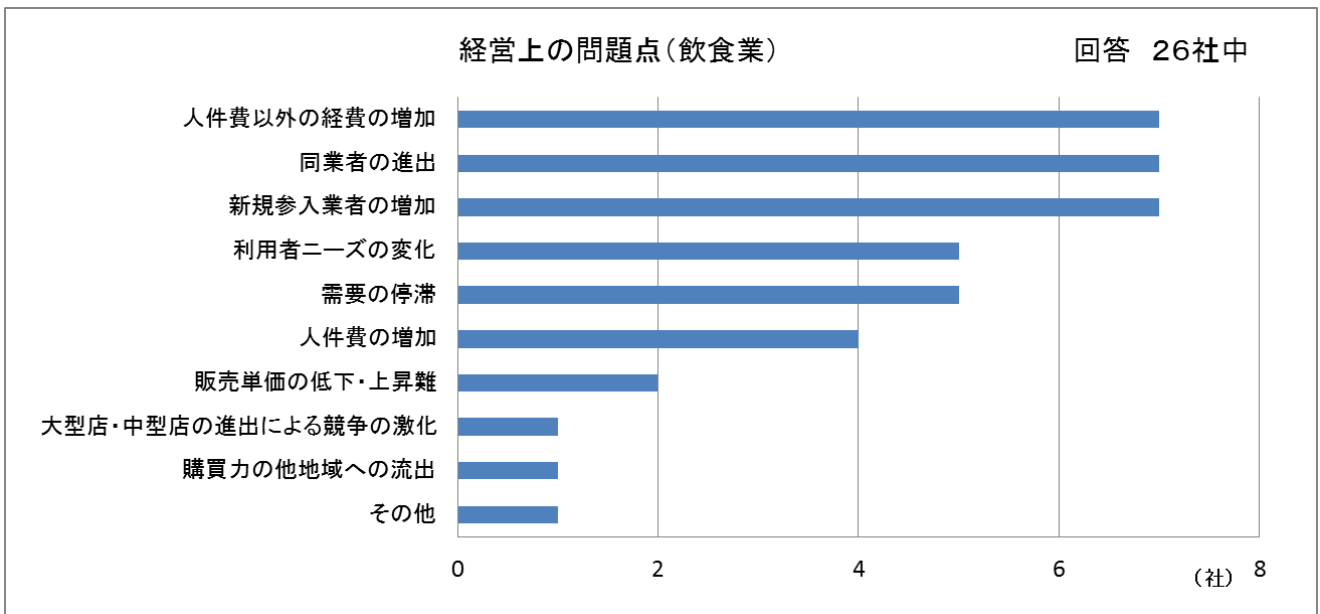
□業況 DI

- ・業況判断 DI は+38.5（前期比+43.0 ポイント）とマイナスからプラスへ大きく改善し、3 ヶ月先は▲19.2 と悪化の見通しです。
- ・売上 DI は+34.6（前期比+34.6 ポイント）とプラス幅が大きく拡大し、3 ヶ月先は▲19.2 と悪化の見通しです。
- ・資金繰り DI は+19.2（前期比+28.3 ポイント）とマイナスからプラスへ大きく改善し、3 ヶ月先は▲34.6 と悪化の見通しです。
- ・採算 DI は+15.4（前期比+29.0 ポイント）とマイナスからプラスへ大きく改善し、3 ヶ月先は▲34.6 と悪化の見通しです。
- ・従業員数 DI は+26.9（前期比▲0.3 ポイント）と人手不足感が横ばいで、3 ヶ月先は+3.8 と不足感がほぼ解消する見通しです。



□設備投資の動向 設備投資件数は機械設備 5 件、OA 機器、建物、車両運搬具、その他の各 2 件です。

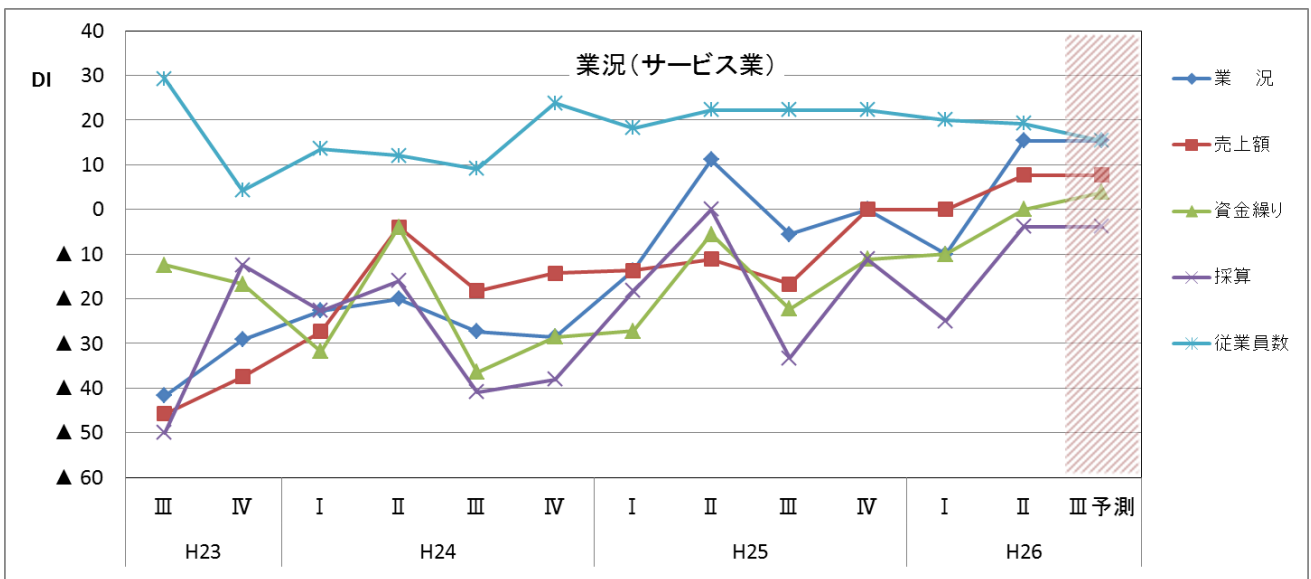
□経営上の問題点



6. サービス業

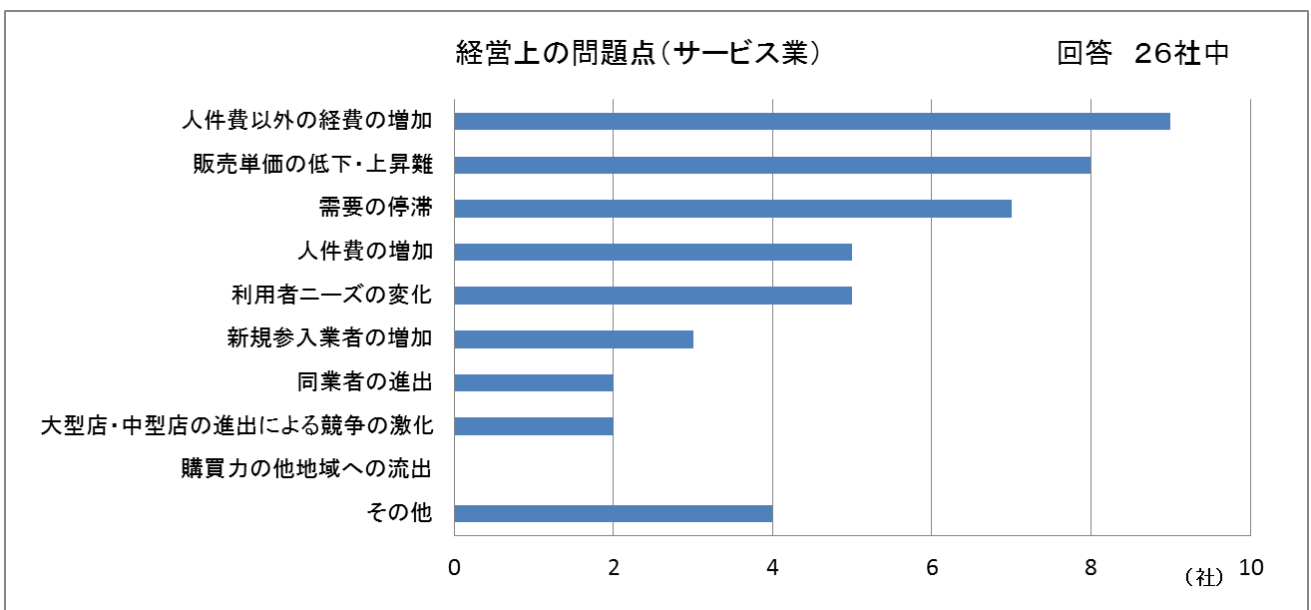
□業況 DI

- ・業況判断 DI は+15.4（前期比+25.4 ポイント）とマイナスからプラスへ大きく拡大し、3ヵ月先は+15.4 と横ばいの見通しです。
- ・売上 DI は+7.7（前期比+7.7 ポイント）とプラス幅が拡大し、3ヵ月先は+7.7 と横ばいの見通しです。
- ・資金繰り DI は±0（前期比+10.0 ポイント）とマイナス幅が縮小し、3ヵ月先は+3.8 と改善の見通しです。
- ・採算 DI は▲3.8（前期比+21.2 ポイント）とマイナス幅が大きく縮小し、3ヵ月先は▲3.8 と横ばいの見通しです。
- ・従業員数 DI は+19.2（前期比▲0.8 ポイント）と人手不足感がほぼ横ばいで、3ヵ月先は+15.4 と不足感はわずかに縮小する見通しです。

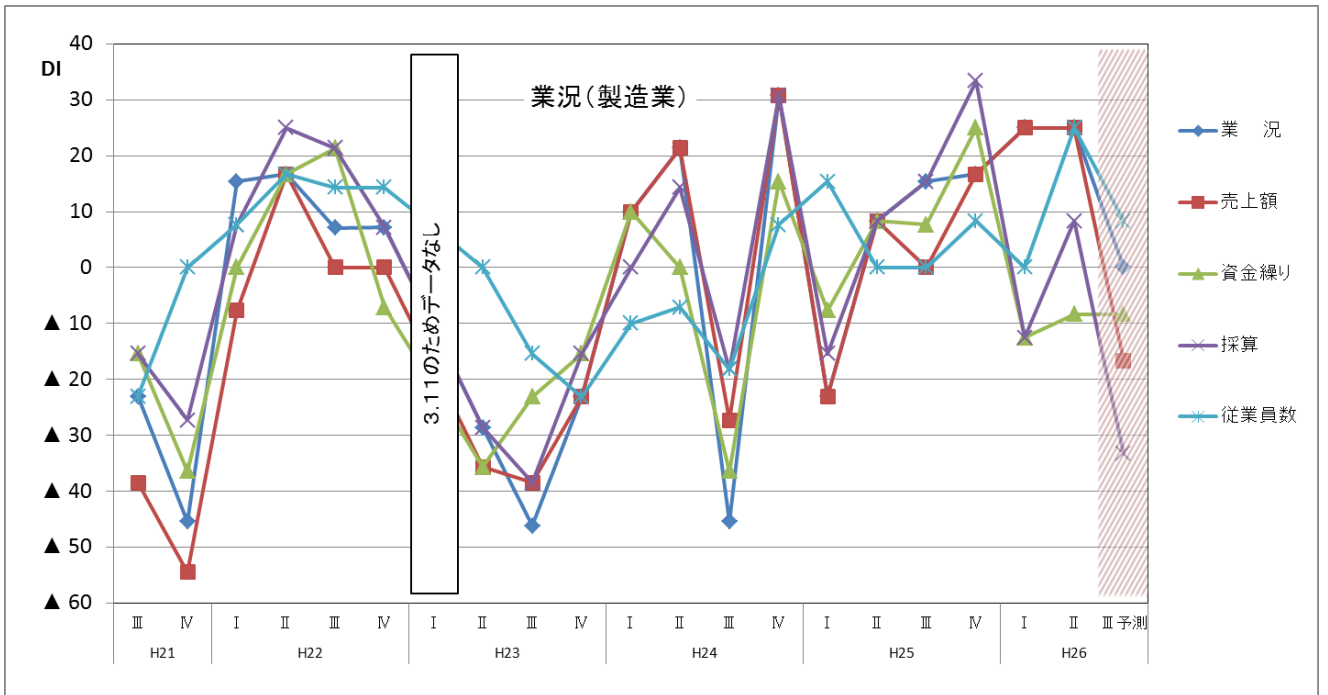
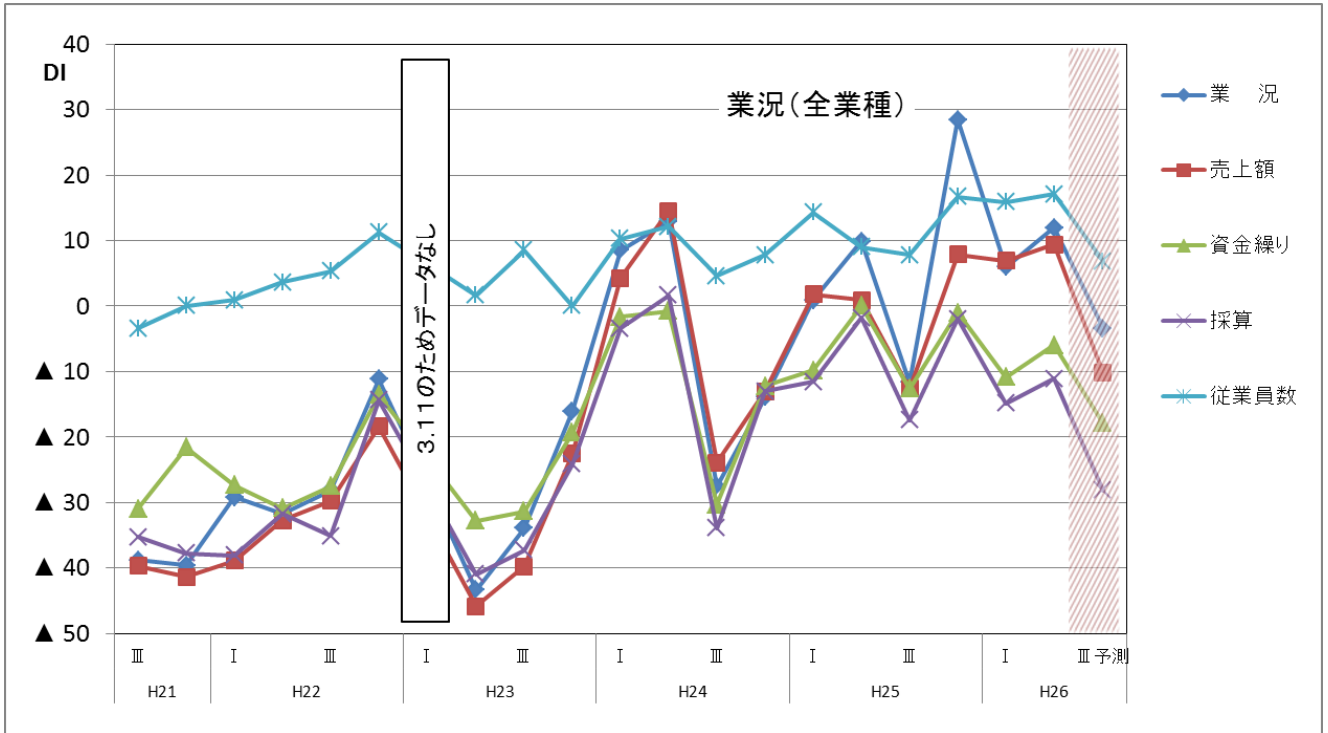


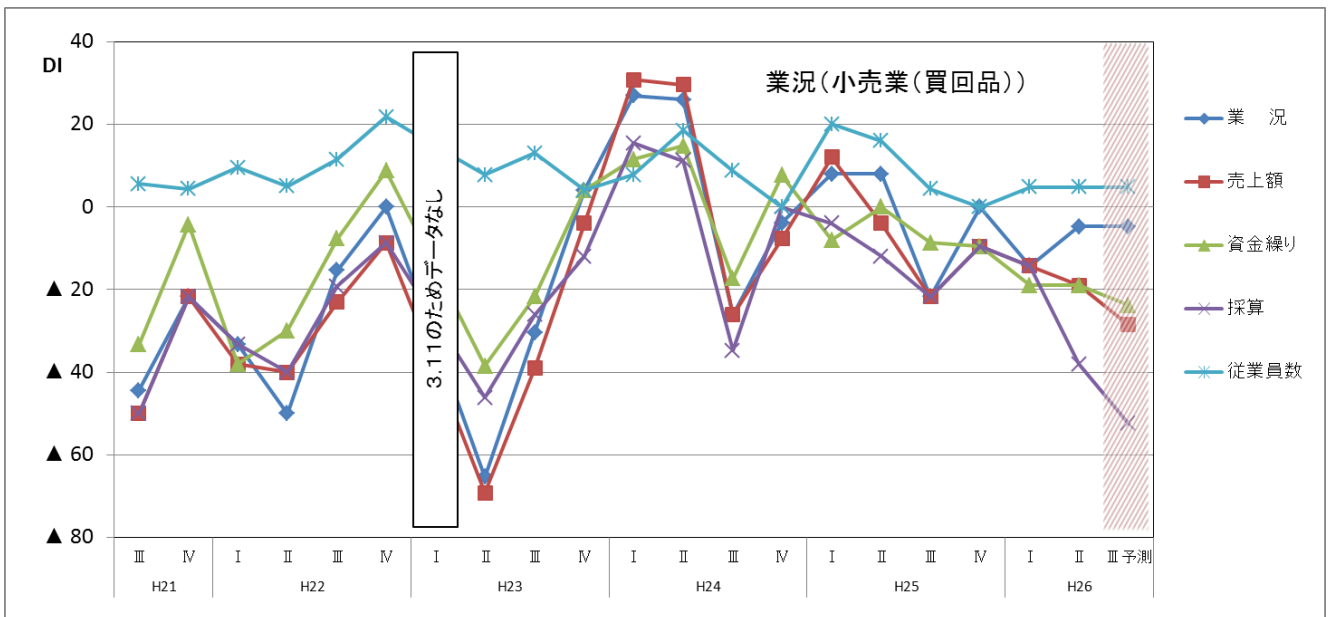
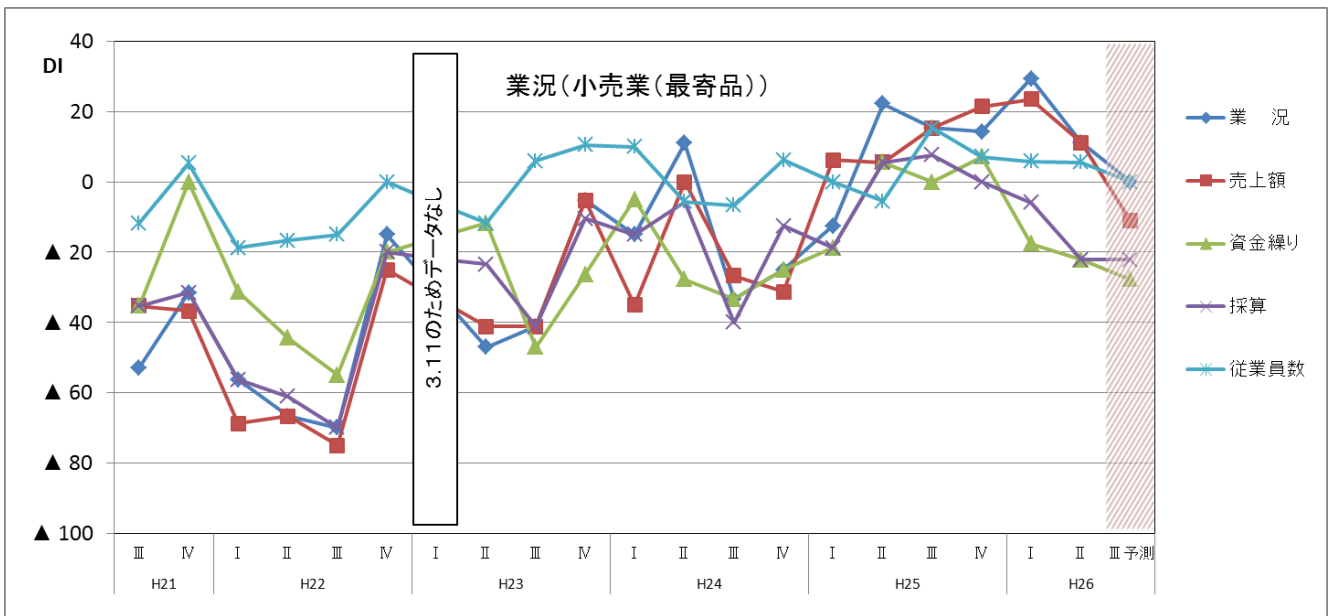
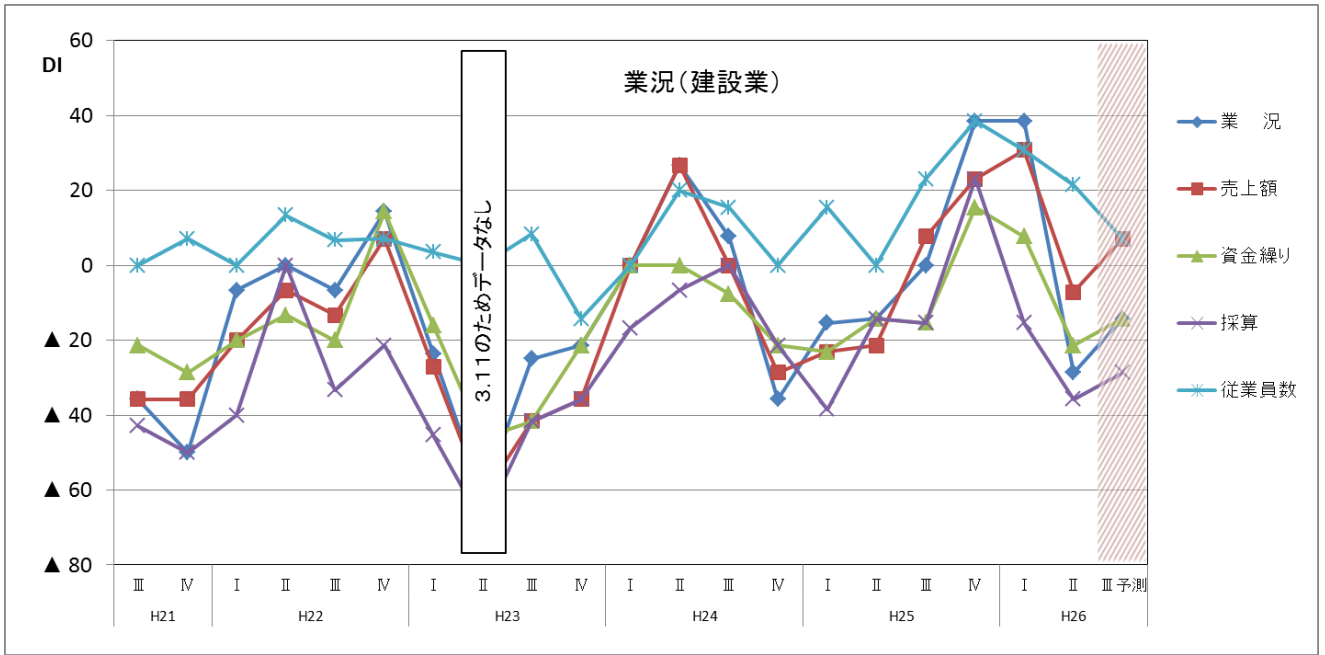
□設備投資の動向 設備投資件はOA機器 3 件、車両運搬具、建物、その他各 1 件です。

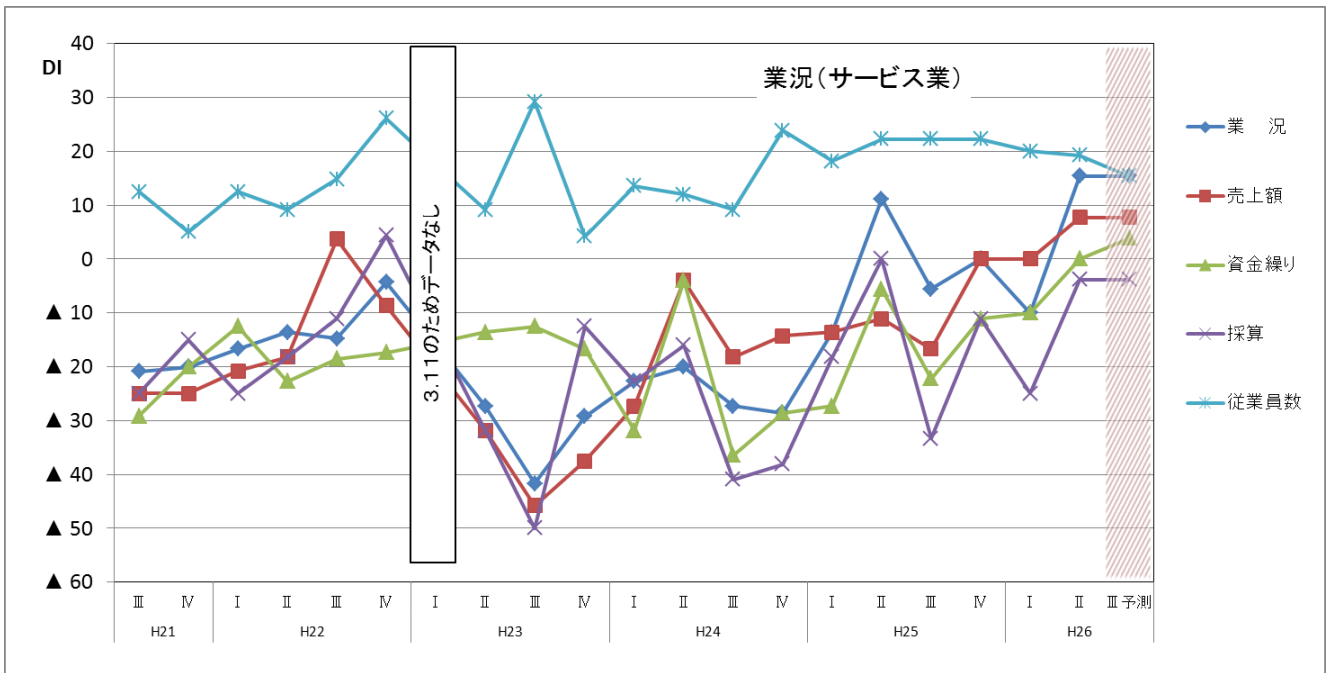
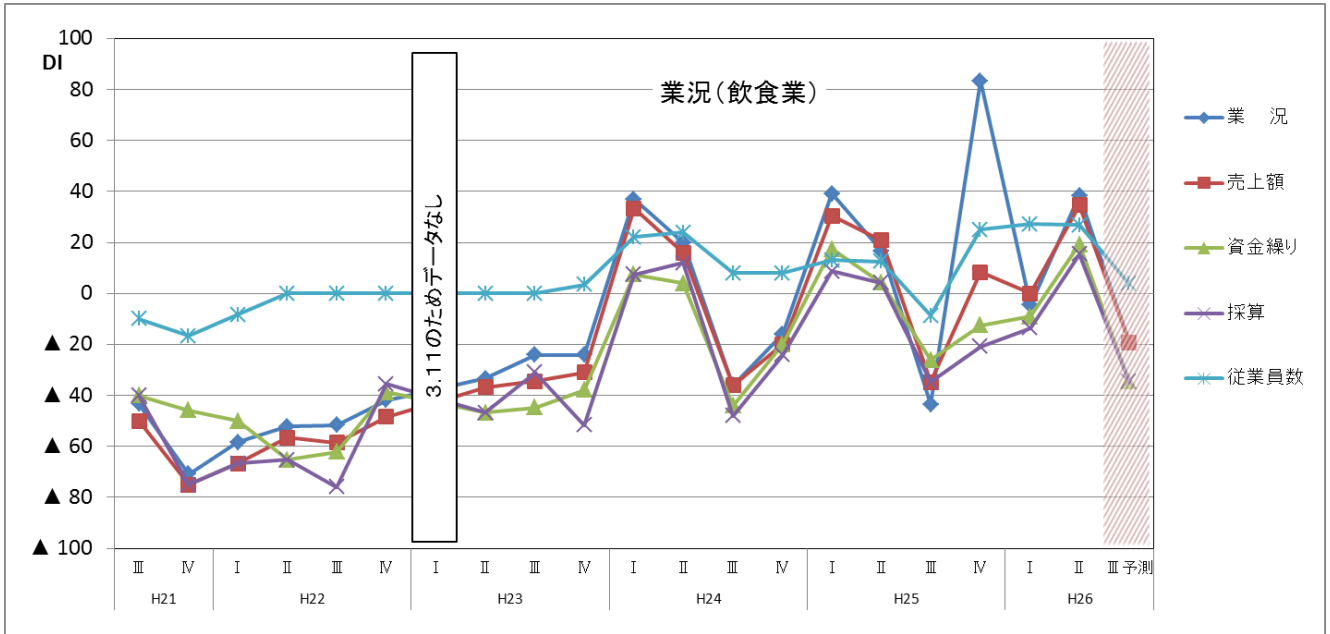
□経営上の問題点



《資料》 5年分の推移







設備投資

全業種	H21		H22				H23				H24				H25				H26		
	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III
OA機器	8	5	4	7	6	4	-	8	4	4	5	7	4	3	3	2	4	7	14	15	2
機械設備	7	5	2	4	1	1	-	3	1	6	3	4	2	4	3	3	4	4	3	8	6
車輛運搬具	4	6	1	3	6	1	-	3	4	3	5	10	3	3	1	4	3	4	11	6	6
建物	1	2	1	1	4	3	-	3	5	4	7	5	4	2	2	3	5	2	4	5	5
その他	1	3	0	1	2	1	-	3	3	0	0	1	2	1	1	3	2	1	1	3	3

製造業	H21		H22				H23				H24				H25				H26		
	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III
OA機器	1	2	1	1	2	1	-	2	1	0	0	1	0	0	0	0	1	2	4	4	1
機械設備	0	0	1	0	1	0	-	0	1	1	1	2	0	0	0	0	0	0	1	1	1
車輛運搬具	0	1	0	0	0	0	-	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0
建物	0	1	0	1	1	0	-	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
その他	0	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

建設業	H21		H22				H23				H24				H25				H26		
	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III
OA機器	0	0	0	1	1	1	-	1	1	3	0	2	0	0	0	0	0	2	2	3	0
機械設備	1	0	1	0	0	0	-	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
車輛運搬具	1	2	1	1	0	0	-	0	1	1	2	1	1	0	0	1	0	0	3	1	2
建物	0	0	0	0	0	0	-	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
その他	0	1	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0

小売業 (最寄品)	H21		H22				H23				H24				H25				H26			Ⅲ予測
	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ		
OA機器	0	1	1	1	0	1	-	0	0	0	1	0	0	0	1	1	2	3	2	2	0	
機械設備	1	1	0	1	0	1	-	0	0	2	0	0	0	0	0	2	2	1	1	2	2	
車輛運搬具	1	0	0	0	2	0	-	1	2	0	1	2	1	0	1	1	0	1	2	1	0	
建物	0	0	0	0	1	0	-	0	2	2	2	1	2	0	0	0	2	0	0	1	3	
その他	0	1	0	0	0	0	-	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	2	

小売業 (買回品)	H21		H22				H23				H24				H25				H26			Ⅲ予測
	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ		
OA機器	1	1	1	2	0	0	-	1	1	1	0	1	2	2	1	1	0	0	1	1	0	
機械設備	0	1	0	0	0	0	-	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	
車輛運搬具	0	1	0	1	2	0	-	0	1	1	0	1	1	1	0	0	0	0	2	1	0	
建物	0	1	1	0	0	0	-	1	1	0	1	2	0	0	1	0	1	1	2	0	0	
その他	0	0	0	0	0	0	-	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	

飲食業	H21		H22				H23				H24				H25				H26			Ⅲ予測
	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ		
OA機器	2	1	1	1	0	1	-	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	1	2	0	
機械設備	2	1	0	3	0	0	-	2	0	2	1	1	1	3	3	1	2	2	1	5	1	
車輛運搬具	1	1	0	0	1	1	-	0	0	0	1	3	0	0	0	1	2	1	0	2	1	
建物	1	0	0	0	2	3	-	2	1	1	1	0	0	1	1	3	2	0	1	2	1	
その他	0	0	0	0	1	1	-	2	2	0	0	1	1	0	0	2	1	1	0	2	0	

サービス業	H21		H22				H23				H24				H25				H26			Ⅲ予測
	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ		
OA機器	4	0	0	1	3	0	-	3	1	0	4	2	2	1	1	0	0	0	4	3	1	
機械設備	3	2	0	0	0	0	-	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	2	
車輛運搬具	1	1	0	1	1	0	-	1	0	0	1	2	0	2	0	1	1	1	3	1	3	
建物	0	0	0	0	0	0	-	0	1	1	1	2	2	1	0	0	0	0	1	1	1	
その他	1	1	0	1	1	0	-	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1	

以上

編集後記

振り返ってみますと、2010年から回復してきた景気は東日本大震災で一度折れましたが、再度復活しており、全体景況判断DIでプラス圏内に定着しつつあります。過去1年の産業別景況では違いが見られ、製造業、小売業（最寄品、買回り品共に）、サービス業はなだらかに伸びてきているのに対して、建設業や飲食業は上下動の激しい波に見舞われています。これには消費税増税の影響も見られます。

従業員DIは総じて不足気味のまま推移しています。企業は固定費を抑えるために、新規雇用を控えています。また、建設業では、高齢化並びに震災復興と東京五輪需要でベテラン職工が不足しています。

経営上の問題点では、需要の伸び悩みが常にトップとなっています。少子高齢化の現代では恒常的な需要増大は望みにくく、自社の製品やサービスを限定された需要に合わせて差別化させていく必要があります。売り上げ増大が難しい反面、経費は上がっており、経営は厳しくなっています。

設備投資では、今回（4-6月）は過去5年で最高の件数です。前回（1-3月）でも投資件数が高く、企業にとって、投資ができるという経済環境が少し整ってきたとも考えられます。

鎌倉は神奈川や国内に比べると景況調査ではあまり悲観的にならない傾向が見られます。神社仏閣の後押しもあるでしょうが、着実に経営してきた老舗の店が多い土地柄でしょう。